

第3回 有田内山グランドデザイン検討委員会

～ 内山地区に住みたいまちづくり ～

- ・定住対策について
- ・住環境対策について

令和3年6月21日

有田町 まちづくり課

内山地区 定住対策について

～ 空き家 ～

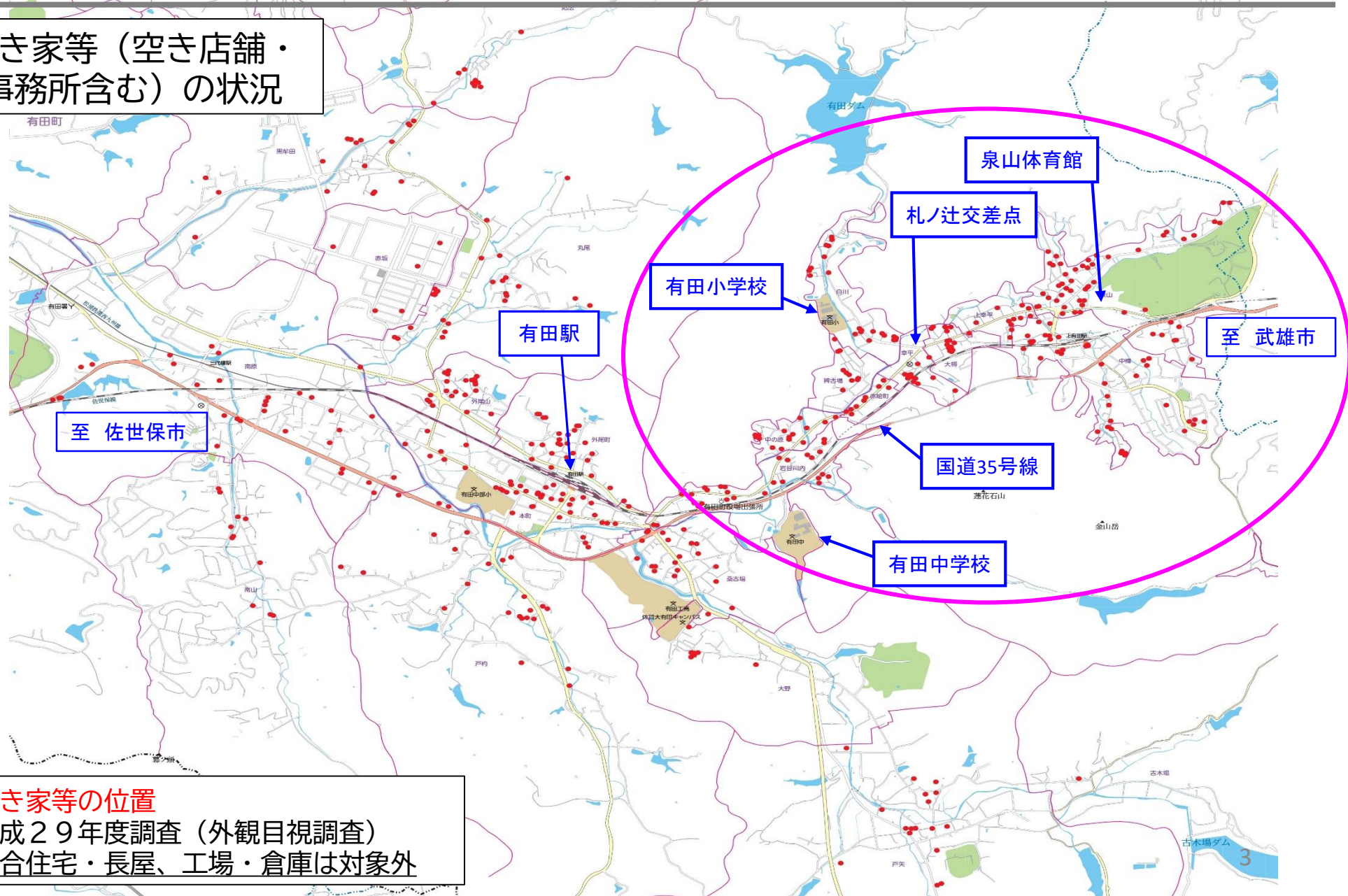
【現状】

- ・内山通り沿いの空き家は、全体の概ね25%
- ・東地区(旧有田町)における内山地区の空き家は、概ね4.6%
(戸建:4711 空き家:217)
- ・内山地区の空き家は、概ね17%(戸建:1282 空き家:217)
- ・NPO法人へ委託し、連携して空き家流通促進事業(町制度)を展開
居住者実績(H27～R2年度 160人 (うち転入者73人)
※町内全域)
- ・老朽化した建物が多く、市場流通性が低い

H29年
度 空き
家調査

内山地区 定住対策について

空き家等（空き店舗・事務所含む）の状況



●空き家等の位置

※平成29年度調査（外観目視調査）
集合住宅・長屋、工場・倉庫は対象外

内山地区 定住対策について

～ 空き家 ～

※平成29年度調査（外観目視調査）
集合住宅・長屋、工場・倉庫は対象外

地区別 空き家等の市場性ランク

高

小

地区名		戸建総数	空き家数	市場性A	市場性B	市場性C	市場性D
1区	泉山	288	53	1 (1.9%)	11 (20.8%)	13 (24.5%)	28 (52.8%)
2区	中樽 上幸平	446	52	2 (3.8%)	5 (9.6%)	17 (32.7%)	28 (53.9%)
3区	大樽 幸平 赤絵町 白川 稗古場 中の原 岩谷川内	548	112	2 (1.8%)	12 (10.7%)	32 (28.6%)	66 (58.9%)
合計		1,282	217	5 (2%)	28 (13%)	62 (29%)	122 (56%)

内山地区 定住対策について

～ 空き家 ～

【課題】

- ・内山地区は、概ね6軒に1軒が空き家
- ・内山通り沿いの建物敷地には、駐車場がほとんどない
- ・伝統的建造物群指定の家屋が空き家となった場合の維持管理
- ・内山地区の空き家の流通は、鈍化傾向

内山地区 定住対策について

～ 住宅用地等 ～

【現状】

- ・地区内は、土砂災害警戒区域の指定箇所が多い
- ・空き地を駐車場に活用
- ・民間宅地分譲またはアパート建設は、ほとんどが下地区(中部小校区)
- ・谷間に住居や店舗が形成

【課題】

- ・低未利用地(長期間に渡り利用されていない、また利用の程度が低い)の利用促進
- ・災害対策を講じての用地の確保

内山地区 住環境対策について

～ 駐車場 ～

【現状】

- ・車両が通れる道路に面した空き地に駐車場があり
(特に稗古場地区には、纏まった駐車場あり)
- ・内山通り沿いの居住者は、少し離れた有料駐車場を利用
- ・駐車料金は、1台あたり概ね3,000円/月

【課題】

- ・駐車場に駐車せず、路上や近くの公的空地へ駐車が多い
- ・敷地内又は隣地に駐車場がないことが、駐車場がないという意識

内山地区 住環境対策について

～ 交通（移動手段） ～

【現状】

- ・内山地区の公共交通体系は、町コミュニティバス及びタクシー

<町コミュニティバスの運行概要>

利用登録者数:78人	利用者の年齢:概ね70歳以上
路線:東西線(平日) 東方線(土日祝)	1日の便数:平日運行 7便(午前3便、午後4便) 土日祝運行 6便(午前3便、午後3便)
地区内バス停数:16箇所	料金:大人 200円 小人 100円 年間パスポート 大人 12,000円 小人 6,000円

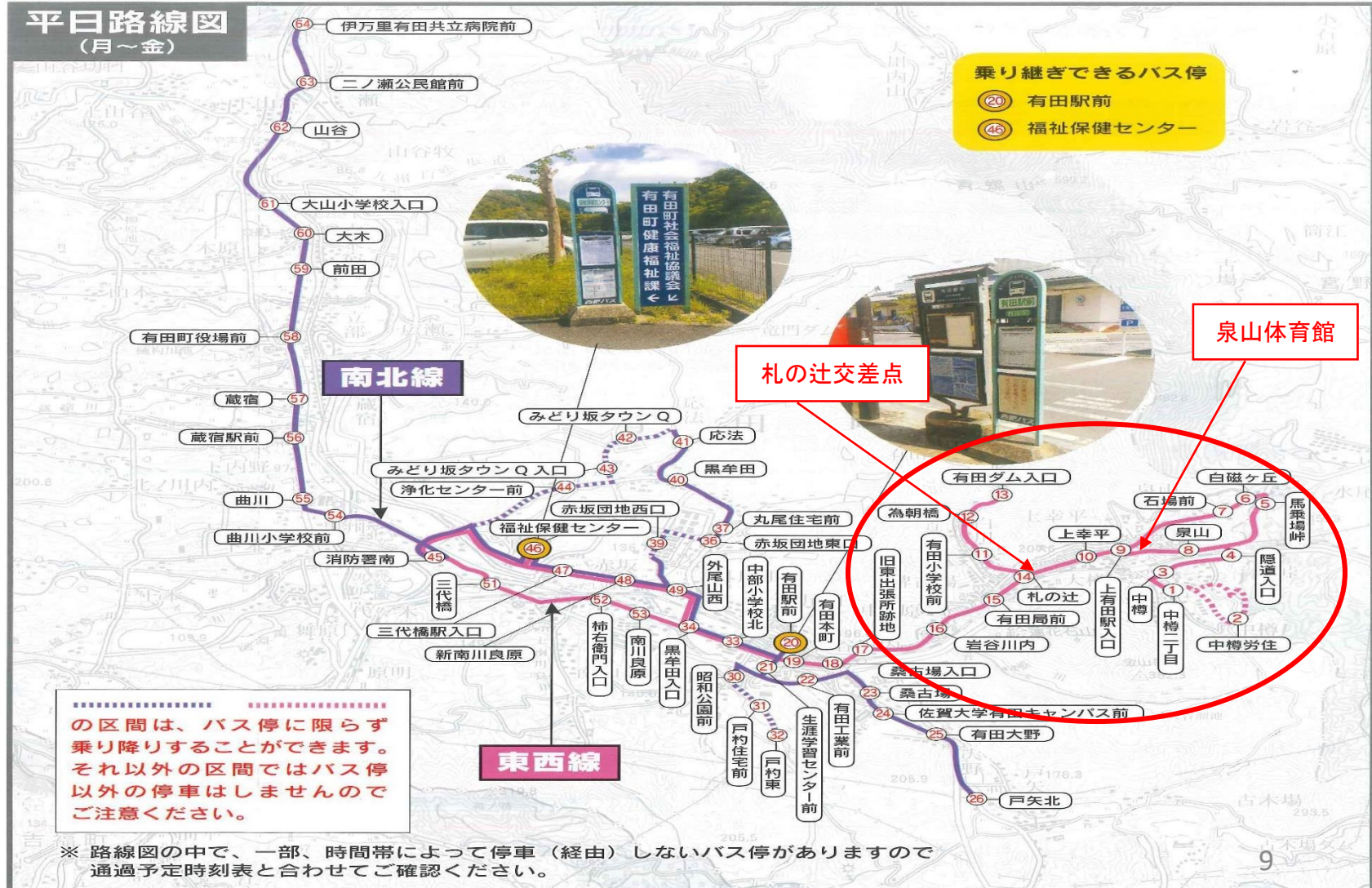
- ・コミュニティバスの利用は、ほとんどが高齢者
- ・JR上有田駅とJR有田駅間は、約2.5キロ

内山地区 住環境対策について

～ 交通（移動手段） ～

町コミュニティバス路線図

【現状】



内山地区 住環境対策について

～ 交通（移動手段） ～

【課題】

- ・今後、運転免許証返納者の増加が見込まれる
- ・更なる高齢化の進展を見据えた交通手段
- ・小回りの利く自由度が高い交通サービスのニーズ対応

内山地区 住環境対策について

～ 買い物 ～

【現状】

◆生活に必要な店舗

分類	種類	備考
小売業	酒店、商店(日用品、精肉)、花店、米店、写真店、パン店、家具店など	内山地区
サービス業	理美容室、クリーニング店、はんこ店など	
飲食業	ラーメン、寿司、ピザ、焼き鳥、喫茶、食事処など	
金融業	銀行、郵便局、ATM	

◆下地区の主な店舗

分類	店名	札の辻交差点からの距離
小売業	ウエスト(スーパー)	2.7km
	まつばや(スーパー)	1.9km
駅	有田駅	2.1km

内山地区 住環境対策について

～ 買い物 ～

【現状】

- ・近くに生活必需品を買う店舗が少ない
- ・買い物は、下地区の店を利用
- ・高齢者や買い物弱者への定期的な移動販売、買い物支援のサービス提供あり

【課題】

- ・移動販売だけでは、すべての生活必需品が揃わない
- ・日常の買い物機会が十分でない(自身の都合で買い物が出来にくい)

内山地区 住環境対策について

～ 防災 ～

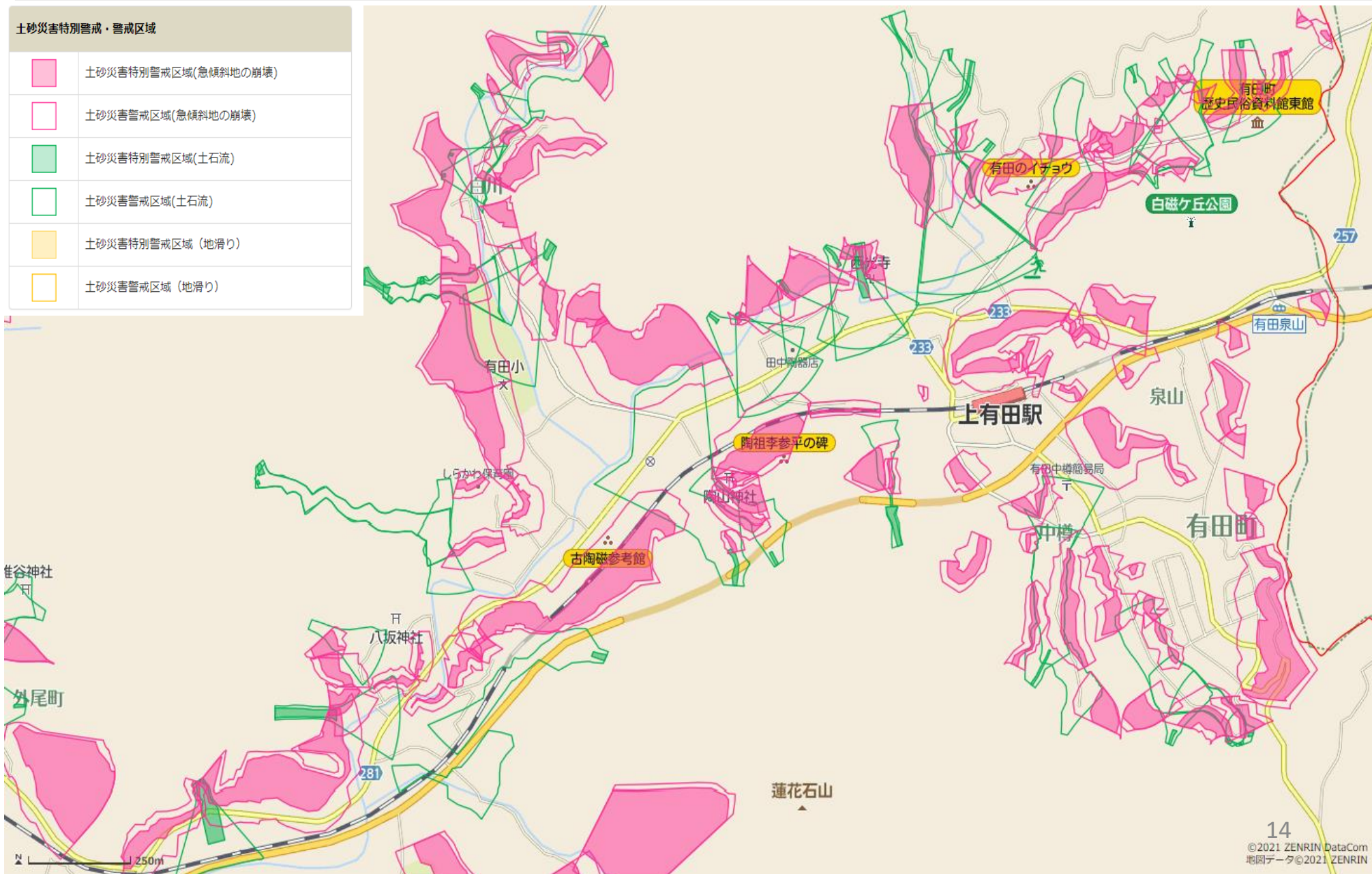
【現状】

- ・内山地区の町指定の避難所は、泉山体育館のみ
（自主避難所：各地区の公民館5箇所）
- ・谷間の地形により、土砂災害危険区域の箇所が多い
- ・町民への災害情報は、携帯メール、屋外防災無線放送、屋内戸別受信機（一部設置）、ケーブルテレビ テロップで情報提供
- ・内山地区のすべての地区が自主防災組織を設立

内山地区 住環境対策について

土砂災害特別警戒・警戒区域

- | | |
|--|---------------------|
|  | 土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊) |
|  | 土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊) |
|  | 土砂災害特別警戒区域(土石流) |
|  | 土砂災害警戒区域(土石流) |
|  | 土砂災害特別警戒区域(地滑り) |
|  | 土砂災害警戒区域(地滑り) |



内山地区 住環境対策について

～ 防災 ～

【課題】

- ・住宅地に近い土砂災害危険区域の災害対策
- ・高齢者によっては、避難所へ移動する手段の確保
- ・災害情報が確実に取得できる仕組みの構築
(屋外防災無線放送の音声聞き取り難いなど)